

住宅火災・放火火災の実態の概要（令和元年中）

第1章 住宅火災の実態

住宅火災の件数

総火災件数、建物から出火した火災件数及び住宅火災件数は、過去10年間で増減はあるものの減少傾向で推移している。

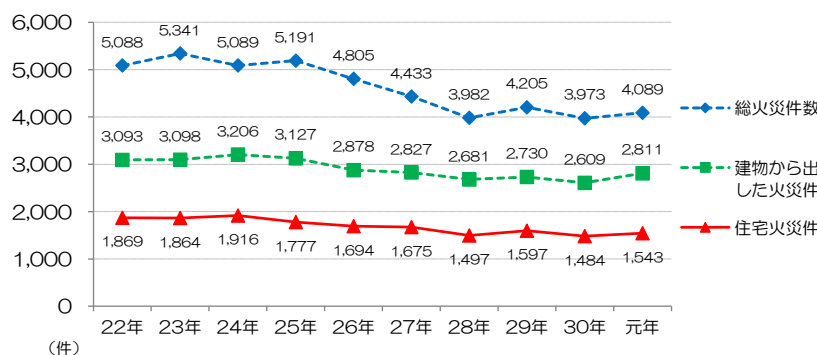


図 過去10年間の住宅火災件数等の推移

住宅火災の死者

令和元年中は、前年に比べ死者が17人増加している。過去5年間の高齢者の死者は7割前後と高い割合で推移している。

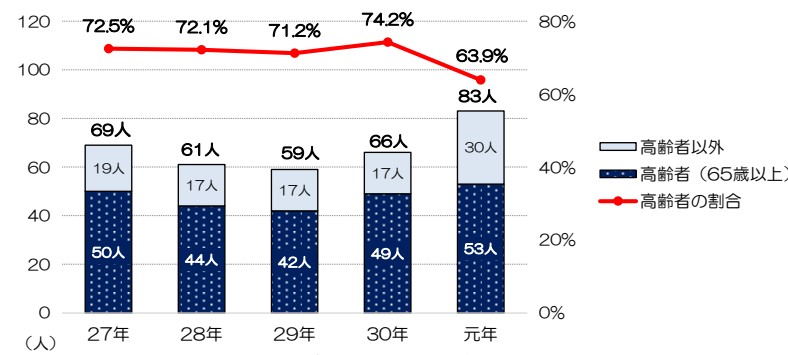


図 過去5年間の高齢者の死者と高齢者の割合

住宅火災の高齢者の死者

令和元年中は、高齢者のみの世帯の割合は、前年より12.3%減少している。過去5年間の世帯別の死者は「高齢者一人暮らし」で最も多く発生している。

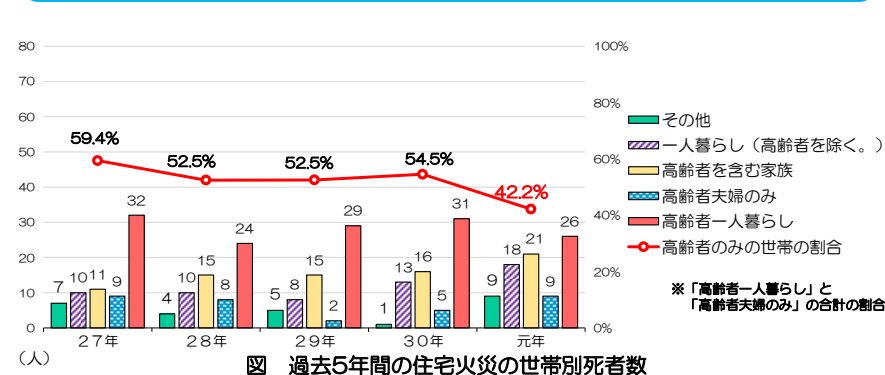


図 過去5年間の高齢者の死者と高齢者の割合

住宅火災の出火原因

住宅火災の出火原因は、「こんろ」によるものが最も多い。

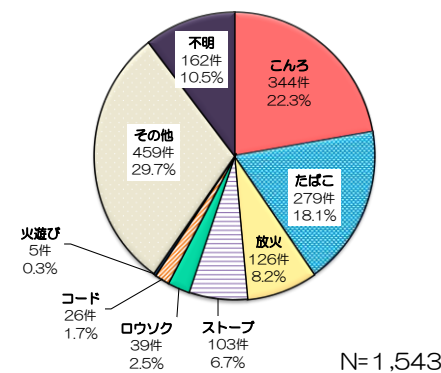


図 住宅火災の出火原因

死者が発生した住宅火災の出火原因

死者が発生した住宅火災の出火原因は、「たばこ」によるものが最も多い。

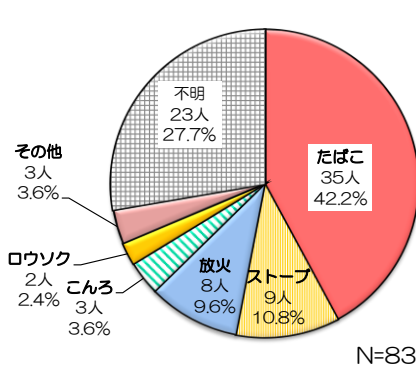


図 死者が発生した住宅火災の出火原因

死者が発生した住宅火災の主な出火原因の発生経過

主な出火原因の発生経過をみると、「たばこ」は寝たばこ等による火種の落下、「ストーブ」は可燃物の接触が最も多い。

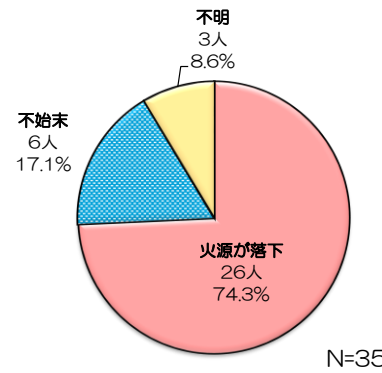


図 「たばこ」の発生経過

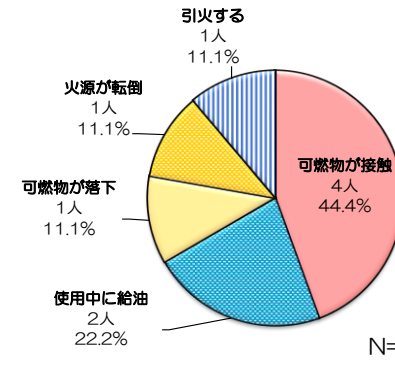


図 「ストーブ」の発生経過

負傷者が発生した住宅火災の出火原因

負傷者が発生した住宅火災の出火原因は、「こんろ」によるものが最も多い。

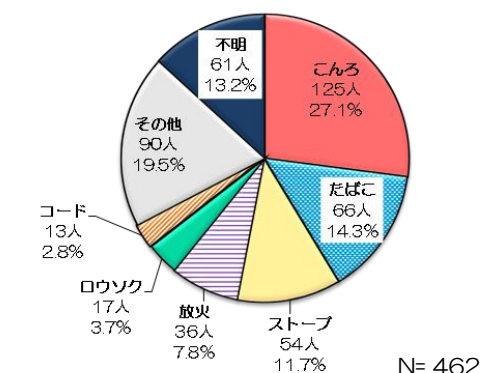


図 負傷者が発生した住宅火災の出火原因

住警器等設置状況別の死者発生数

住警器等設置状況別の住宅火災による死者発生数をみると、設置なしが約半数を占めている。

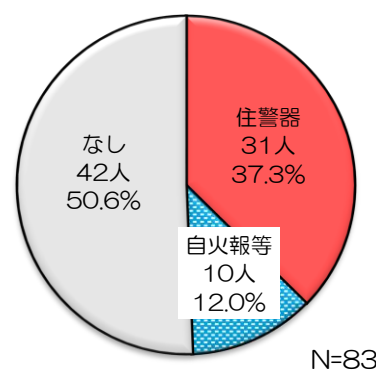


図 住警器等設置状況別住宅火災による死者発生数

住警器等設置状況別の比較

住警器等設置状況別に、火災100件あたりの死者数、火災1件あたりの焼損床面積及び損害額を比較すると、住警器等の「設置あり」の方が被害が少ない。

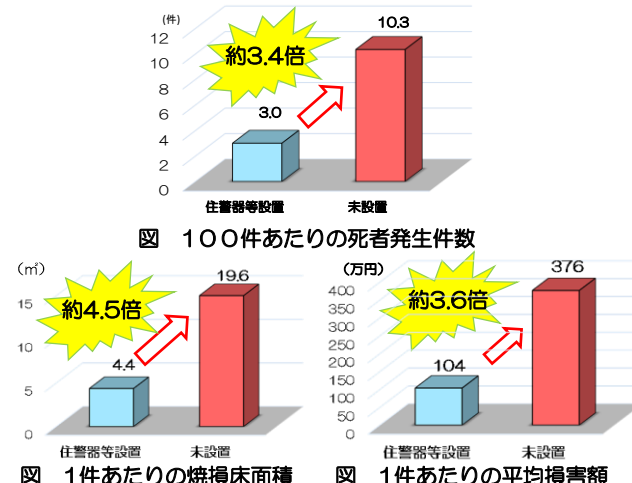


図 100件あたりの死者発生件数

図 1件あたりの焼損床面積

図 1件あたりの平均損害額

第2章 放火火災の実態

放火火災の発生件数

放火火災の件数は減少傾向であり、平成28年から1,000件を下回っている。総火災件数に占める放火火災の発生件数の割合は、過去10年で最も低い数値となっている。

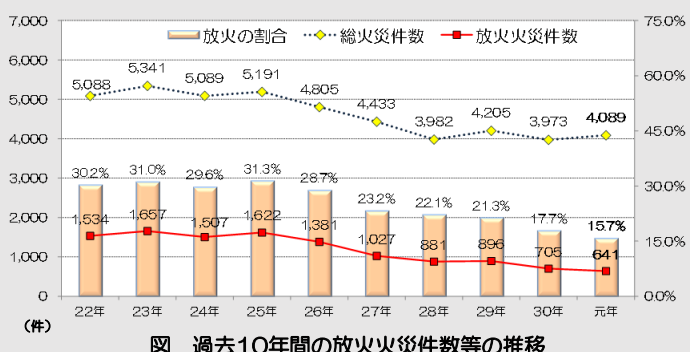


図 過去10年間の放火火災件数等の推移

放火火災の発生時間帯

時間帯別にみると、0時～1時、20時～23時に多く発生し、火災に占める放火火災の割合は、2時～3時が高くなっている。

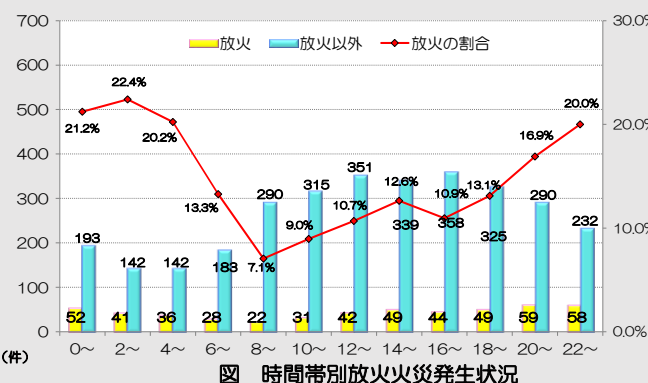


図 時間帯別放火火災発生状況